資料７

姫路市観光戦略プラン 2027-2031 骨子（案）

姫路市の観光の将来像　「姫路城を核に、文化・暮らし・地域経済をまち全体で育てる持続可能な滞在型観光」

総合計画　行動指針	人・地域		活力				土台					
総合計画　目指す姿を実現するための市の取組の方向性	ア　観光の振興に寄与する人材の確保・育成		イ　生きた歴史・文化・魅力を体感できる観光コンテンツの充実		ウ　姫路の歴史的・文化的な魅力を伝えるシティプロモーションの展開	エ　国内外から高く評価されるコンベンション都市の実現	オ　観光客に寄り添った受入環境の整備		カ　地域一体となった戦略的・継続的な地域づくり			
共通課題	姫路城来城者の市内周遊に繋げられておらず、滞在時間が短く、観光消費も限定的											
戦略案	観光を支える人材・事業者の育成と広域連携の推進		体感型観光コンテンツの充実		歴史・文化の魅力発信の強化	MICE 開催都市としての機能強化	快適に移動・滞在できる受入環境の充実		戦略的な観光マネジメントの推進			
詳細	観光の担い手となる人材の確保・育成を進めるとともに、事業者や地域間の連携を強化し、広域で魅力を発信できる体制を整えます。		姫路城をはじめ、生きた歴史や文化、地域の魅力を体感できる観光コンテンツを充実させ、滞在時間の延長と観光資源の魅力向上を図ります。		姫路の歴史的・文化的資源の魅力を広く発信し、国内外からの誘客と認知拡大を図ります。	国内外から選ばれるコンベンション都市を目指し、受入環境整備とともに、MICE 誘致を戦略的に進めます。	観光客が市内を快適に移動し、安心して滞在できるよう、二次交通や観光関連施設の案内・利用環境の改善を進めます。		観光データの収集・分析を通じて、消費単価の向上や観光負荷の分散を図り、持続可能な観光を推進します。			
キーワード	❶観光人材・事業者の育成	❷広域連携	❸滞在時間の延長	❹観光資源の磨き上げ	❺誘客・認知拡大	❻MICE 誘致の推進	❼二次交通・アクセスの改善	❽受入環境の整備	❾観光データの収集・分析	❿消費単価の向上	⓫観光公害への対策	⓬持続可能な観光
課題（全国）	深刻な人手不足により、旅行需要を取り込めていない。	地域ごとの観光資源が十分に連携されず、広域で周遊を促す仕組みが確立されていない。	滞在時間が短く、地域での消費拡大につながりにくい。	地域資源が豊富な一方、観光コンテンツとしての造成・磨き上げが十分でない。	新たな旅行者の行動変容に対応したプロモーションが効果的に行えていない。	MICE 開催地としての地域の魅力の向上を図り、その開催効果を波及させる必要がある。	魅力ある観光地を訪問するための交通ネットワークが十分でない地域がある。	観光客が安心して利用できる観光関連施設の案内やサービス環境が不足している。	データに基づく観光マネジメントが十分に定着していない。	観光コンテンツの付加価値を高め、旅行者の消費単価や満足度の向上を図る必要がある。	観光客の集中により、混雑や周辺環境への負荷が生じる場面への対応が十分でない。	観光の経済効果を地域に持続的に循環させる仕組みが十分でない。
課題（姫路市）	・観光事業者の接客力や多言語対応力に差がある ・商品企画や情報発信を担う人材が不足している ・事業者間の連携や学び合いの機会が十分でない	・他自治体と連携した周遊ルートづくりが十分でない ・他自治体や観光事業者との連携発信が弱い ・姫路を起点とした広域観光の魅力づけが不足している	・日帰り観光の比率が高く、滞在が短い ・夜間に楽しめるコンテンツが少ない ・城観光後に市内を回遊する導線が弱い	・姫路城以外の観光資源の見せ方が十分でない ・歴史・文化・食などの資源をストーリー化できていない ・体験型・滞在型コンテンツの造成が不足している	・姫路城の知名度に比べ、市内全体の観光魅力の認知が十分でない ・ターゲット別の訴求や発信内容の整理が十分でない ・季節や市場に応じた誘客戦略が弱い	・MICE 誘致を支える営業体制や受入体制が十分でない ・姫路ならではの会議・イベント開催メリットの発信が弱い ・開催後の市内消費や宿泊につなげる仕組みが弱い	・姫路駅、姫路城、商店街、周辺観光地を結ぶ移動の利便性に課題がある ・観光客向けの周遊手段や案内が十分でない ・広域周遊につながる交通のわかりやすさが不足している	・多言語案内、キャッシュレス、Wi-Fi などの対応が十分でない ・トイレ、休憩所、案内所などの快適性向上が必要 ・外国人観光客や高齢者、障害のある人への配慮が十分でない	・観光客の属性や動向を継続的に把握する仕組みが十分でない ・データを施策改善に結びつける体制が弱い ・関係者間で共通認識を持てるデータ基盤が不足している	・高付加価値な体験商品や滞在商品の不足 ・地場産品や飲食の消費につなげる仕組みが弱い ・観光消費を広げる滞在モデルが十分に確立していない	・姫路城周辺への来訪集中を緩和する必要がある ・混雑状況の見える化や分散化の仕組みが十分でない ・観光客と住民生活の両立を図る調整が必要である	・観光客増加と地域環境・住民生活の両立が十分に整理されていない ・地域への経済効果を持続的に還元する仕組みが弱い ・環境配慮や長期的な観光マネジメントの視点が不足している
姫路市の特徴	観光案内を担うボランティア団体が多く、受入体制の基盤がある	他自治体と連携した広域観光の取組みに参画している	姫路城のみを目的とした来訪が多く、周遊や滞在拡大の余地がある	歴史・文化・食などの多様な観光資源を有する	姫路城と海外 6 城等が姉妹城提携を結んでいる	大規模集客や MICE に対応できる施設がある	交通結節点（JR 在来線・新幹線、山電、路線バス、リムジンバス）の機能が整っている	歩いて回りやすい都市空間があるユニバーサルツーリズムセンターがある	観光地域づくりを担う組織（地域 DMO）がある	姫路城周辺に観光施設がまとまって立地している	特定の観光地に来訪が集中しやすく、受入負荷の分散が重要である	姫路城の保存と活用を両立する仕組みがある
取り組むべきこと（政策案）	・観光案内や接客対応に関する人材育成 ・観光業従事者の研修やスキルアップ機会の提供 ・若手人材や後継者の確保 ・ローカルガイドの育成	・他自治体との周遊ルート形成 ・広域観光圏の整備 ・民間事業者との連携 ・広域連携 DMO 等との連携強化	・観光スポットの回遊性向上 ・ナイトタイム観光の充実 ・体験型コンテンツの拡充 ・宿泊を伴う商品造成 ・ガイド付プランの充実	・歴史・文化・自然資源の魅力向上 ・体験プログラムの開発 ・地域住民と連携したまち歩き・食文化発信 ・既存資源のストーリー化	・観光地のブランド化 ・SNS、動画、広告を活用した情報発信 ・海外市場向けのプロモーション ・季節ごとのイベントやキャンペーン展開	・MICE を活用した交流人口と経済波及効果の拡大 ・コンベンション機能の強化 ・地域資源を活用したレセプションや体験プログラムの提供	・空港、駅、観光地間の移動利便性向上 ・観光型 MaaS の導入 ・多言語案内、交通結節点の改善	・多言語対応 ・Wi-Fi、キャッシュレス決済の整備 ・トイレ、休憩所、案内所の充実 ・ユニバーサルツーリズムの推進	・観光客属性や動向の分析 ・需要予測 ・効果測定に基づく施策改善 ・デジタルマーケティングの最適化 ・EBPM	・高付加価値ツアーの造成 ・地元食材や工芸品の活用 ・プレミアム宿泊、ガイド付き体験の提供 ・富裕層・インバウンド向けサービス強化	・混雑分散・マナー啓発 ・予約制・時間帯分散 ・観光客動線の調整 ・住民生活との両立	・環境負荷の低減 ・地域資源の保全 ・地域住民への便益還元 ・サステナブルツーリズムの推進 ・DMO の体制強化